



トイレお掃除術！

トイレをきれいにすると運気があがる!?

トイレをきれいにすると運気があがる！とよくいわれます。

トイレは掃除の中でもやりたくない場所ナンバー1。

家族全員が使い、毎日汚れる場所だからこそ、

家族のことを思いながらきれいにしていく。

その気持ちが思いやりの心を育て、家族円満=運気アップにつながるのでは??

そうは言っても・・・トイレの掃除はなかなか気が乗らないものです。

そこで！簡単で環境にも優しいトイレのお掃除術を紹介します！

金運
アップ



CHECK 1 芳香剤



重曹をインテリア代わりに

重曹は、トイレに常備しておくと便利です。容器に入れておくのではなく、インテリア感覚で砂のように入れておきます。重曹には消臭効果があるので、脱臭剤代わりにもなりますし、お掃除の際にはここからひとつまみして洗剤としても活用できます。

脱臭剤・洗剤・インテリアと一石三鳥の効果があります。

CHECK 2 便器の内側



クエン酸湿布

まず、クエン酸と水を混ぜ、ペースト状にします。このペースト状になったクエン酸をトイレットペーパーなどに含ませ、落としたい汚れの部分に貼り付けます。この状態で数時間放置し、その後ブラシなどで擦ります。クエン酸は水に含まれて放置すると固まってしまいます。洗い流す際には、この固まったクエン酸もしっかり落としましょう。

長年の尿石がこびりつき、取れない場合におすすめな方法です。

重曹+クエン酸

まず、便器の内側に適量の重曹を振り掛けます。次に、便器の水が溜まっている部分にクエン酸を流し込みます。そして、トイレブラシなどでクエン酸が混ざった水を重曹にじませてあげます。すると、勢いよく泡が発生し、汚れを分解してくれます。

トイレットペーパーで湿布をすると、長時間留まってくれますので効果がアップします。汚れがひどい場所では、泡が発生しなくなった後もしばらく放置するといいでしよう。最後は水を流すだけでお掃除完了です。

重曹とクエン酸を混ぜると化学反応を起こし、強力な泡でしつこい汚れを落してくれます。即効性がありますのでおすすめな方法です。



エコ洗剤として大活躍！重曹とクエン酸！

重曹とクエン酸は万能洗剤ですが、汚れの種類を間違えると全く効果がありません。

★クエン酸……水垢・水道水のカルキ・尿石などに効果があります。

★重曹………主に油汚れなどに効果があります。

トイレ掃除では、便器にこびりついた

汚れは水垢や尿石がほとんどです。便器のお掃除にはクエン酸を中心

に使うように覚えておきましょう。

重曹はトイレ掃除には効果がないよう

に思われますが、脱臭効果がありますので消臭剤代わりにもなりま

す。また、酸性のものと触れると化学

反応を起こして汚れを落とす効果がアップします。重曹だけで便器

のお掃除をしてもほとんど効果はあり

ませんので覚えておきましょう。

CHECK 3 トイレタンク

重曹を入れる

トイレタンクの中にカップ1杯程度の重曹をいれます。そして、一晩放置して翌日水を流します。トイレタンクの中は黒ずみの汚れが溜まっている事が多く、便器の汚れの原因になっていることがあります。この方法なら水を流すだけでトイレタンクとトイレを同時に掃除することができます。月に1回程度の頻度で問題ありませんので、定期的に行うと効果的です。

CHECK 4 ウォシュレット

ウォシュレットノズル

ノズル洗浄ボタンを押すと、水が流れながらノズルが出てきます。しばらく洗浄していなかった場合、その汚れ具合に驚く事もあるかもしれません。ノズルは比較的弱く、壊れやすいところなので、ブラシでゴシゴシ擦らず、布などで拭き取ります。汚れがこびりついで取れない場合は、中性洗剤を使って拭き取りましょう。

CHECK 5 重曹スプレー & クエン酸スプレー

スプレー bottles に入れて常備

クエン酸も重曹も通常は粉末で販売されていますが、水に溶かしスプレー bottles に入れて常備しておくと便利です。

常に手の届く場所においておけば、いつでも気軽にスプレーしたり簡単な掃除がたりします。汚れの種類や目的によって使い分けましょう。



サビに注意！

重曹もクエン酸も、お掃除の後には拭き取りをしっかりと行いましょう。金属部分などに残ってしまうと、サビを誘発してしまい、逆効果になってしまいます。特にクエン酸はサビやすく、残るとベトベト感も残っていますので注意しましょう。



掃除中は換気をしよう！

重曹もクエン酸もエコ洗剤で人体には無害だと思われがちですが、重曹はアルカリ性・クエン酸は酸性ですので化学反応を起こします。

特にこの2つを混ぜた場合、洗浄効果は効果的ですが、大量のガスが発生しますので、換気を心掛けましょう。